

中島敦、中島撫山の足跡を学ぶ!

●歴史、文化、そして自然を堪能した旅、その2!



〔駅前での挨拶、根本会長(後ろ姿)〕



〔久喜駅前デッキをスタート〕



〔駅前広場のモニュメント像〕



〔駅前広場にある中島敦の看板〕



〔中島敦の看板〕

◆サリアビルにて 集合9時30分

久喜麗和会の奥貫和夫会長(久喜市観光ボランティアの初代会長も務められている)からご挨拶。「皆さん、おはようございます。今日はあいにくの雨模様ですが、久喜の歴史と文化、そして自然を楽しんでいただきたいと思っています。コースは、資料でお渡ししましたが、この駅前をスタートして5~6キロを歩いていただき、昼食時に懇親会を予定しています。久喜市は、江戸時代に久喜藩が一時期置かれましたが、その後、天領となり代官が置かれました。代官の早川八郎左衛門(1739-1808)が郷学『遷善館(せんぜんかん)』を設立し、領民の教育に努めました。そうした影響もあり、亀田鵬斎・綾頼・鶯谷を慕って明治2年に移り住んだ漢学・儒学者の中島撫山(1829-1911)が私塾『幸魂(さきたま)教(きょうしゃ)舎』を開

き、漢学(論語など)や和学(日本書紀・古事記など)を教えました。撫山は小説家・中島敦の祖父にあたります。今日は、中島撫山や中島敦の足跡を巡ってまいります。それでは、久喜麗和会と春日部地区浦高会の皆さんでペアになっていただき、お互いに挨拶してください。」

◆9時50分、駅広には中島敦の記念碑が!

続いて、久喜麗和会の眞田副会長と春日部地区浦高会の根本会長からのご挨拶。9時50分、30人の集団が3つのグループに分かれて、観光ボランティア補助のお二人と一緒にスタートしました。

久喜駅西口交通広場にブロンズ像があります。久喜駅西口再開発事業の完成を記念して平成4年に「風に見える街」をテーマに造られました。

続いて交通広場の片隅に奥貫会長が立たれました。そこには「中島敦の案内看板」がありました。「久喜・中島敦の会、久喜市教育委員会」が主体となって平成23年(2011年)春に設置されたそうです。

* *

★中島敦について★【久喜市公式ホームページ】



1909年5月5日東京府四谷区(当時)に生まれる。父母の離婚により2歳から6歳までの約5年間祖父のいる埼玉県南埼玉郡久喜町(当時)で育つ。その後、横浜高女に勤務する傍ら創作活動に励みました。主な作品に『山月記』、『光と風と夢』、『李陵』など。漢文脈の格調高い文体は、祖父中島撫山をはじめとする儒家の家系に由来します。1942年12月4日持病の喘息により逝去。享年33歳。

* *

★案内看板記載文

『久喜ゆかりの作家 中島敦』★

中島敦は、明治四十二年(一九〇九年)五月五日、東京四谷に生まれ、幼少時、この久喜の地に五年余り過ごしました。多くの門人を育て当地の教育の基礎となった学塾・幸魂(こうこん)教舎(さきたま教舎とも訓む)を開いた漢学者の祖父・中島撫山や父・田人をはじめ中島家の家学・漢学と歴史の豊かな素養に支えられた敦の小説は、格調高く趣き深い文体を特徴としています。作品には「山月記」「弟子」「名人伝」「李陵」をはじめ、「光と風と夢」「かめれおん日記」「斗南先生」などがあり、いずれもこの作家の幅広い学識が紡ぎ出したものです。森鷗外の再来・第二の芥川龍之介と評されながら作家活動は短かく、持病の喘息によって昭和十七年(一九四二年)二月四日、三十三歳の短い生涯を終えました。

平成二十三年(二〇一一年)春 久喜・中島敦の会
久喜市教育委員会

* *

この記念看板は、中島撫山の学習塾兼自宅があった場所にもありました。そちらは平成27年12月に設置されたそうです。郷土の先人たちを大切にし、今日でも顕彰している久喜の皆さんの民度の高さに最敬礼です。「山月記」は高校時代に学びましたね。

駅前を離れて「寒梅酒造」「旧家の榎本家」などを見て「中島敦ゆかりの家」に到着しました。



〔中島撫山邸宅跡にて〕



〔中島敦ゆかりの地案内と槐の木〕



〔「撫山中島先生終焉の地」の石碑〕

漢学塾を開いた。5年本籍を久喜本町に移し、この地に永住することにした。6年神道教導少講義に補せられ教導職を兼ねた。これを機に自宅に幸魂教舎を開設して地域の教導に尽くした。その仁徳と学殖を慕うもの近隣に満ち、その数1,500余人といわれる。また、撫山の2男端蔵・3男竦之助も父と共にこの地に移り塾生の指導に当たっている。撫山歿後も漢学塾は引き継がれ、久喜地方の郷学の基となって教育上大きな影響を及ぼした。一方、撫山は全国各地を遊歴し多くの漢文を残し、その著書に「演孔堂詩文」がある。また、書をよくし、近隣の神社の幟等を揮毫した。久喜市の中島家宅地に撫山の碑「撫山中島先生終焉の地」が建碑された。

【久喜は教育の伝統 中島撫山、他より】

* *

★ 中島撫山邸宅跡 ★

撫山中島啓太郎は文政十二年（一八二九）江戸亀戸に生まれた。江戸末期の学者で文人として名高い亀田鵬斎の子綾瀬（ともに久喜遷善館教授）、孫鶯谷に師事し、明治期における亀田鵬斎の学問を継承する

* *

◆ 撫山邸宅跡にて

個人宅の塀の上に「中島撫山邸宅跡」と書かれた看板がありました。

★ 中島撫山 ★

文政12(1829) - 明治44(1911)。漢学者・私塾経営者。江戸亀戸(東京都江東区)生まれ。名は慶、通称慶太郎。字を伯章、号を撫山・演孔堂・佐知麻呂といった。少年期、漢学を出井貞順に学び、その紹介で亀田綾瀬・鶯谷父子に師事した。安政5年(1858)江戸両国矢ノ倉で漢学塾を開いたが、翌年神田、慶応2年(1866)鹿室村(さいたま市岩槻区)の塾に移った。続いて明治2年(1869)近くの久喜本町(久喜市)に移り

中心的存在であった。明治二年に現久喜市本町一丁目に移り、六年に国学の塾「幸魂教舎」を開き明治四十二年（一九〇九）に現在地に移転、同四十四年八十三歳この地で没した。門弟は埼玉県東部地域を中心に近県にまで及び国会議員、県会議員・町長・村長等の他、郷土の経済・文化の面で中心となって活躍した。

また明治四十四年には撫山の第六子田人の長男敦が祖父撫山の没後、久喜に引取られ、六歳までここで生活した。敦の作品「李陵」「斗南先生」「狼疾記」「かめれおん日記」等は、祖父撫山六人の伯父、父親田人等の生き方をそして中島家の家学の伝統を色濃く反映しているものである。中島敦の作品「光と風と夢」は芥川賞候補となり、「山月記」などは現在の高等学校のほとんどの現代国語の教科書に載せられている。中島撫山の住居は、このように撫山が郷土の人材を育成した場であるとともに、現代文学の上に光をはなつた中島敦の文学の原体験の場であるという二重の意味を持ち久喜にとって貴重な文化遺産である。

平成十三年五月吉日 久喜市教育委員会

* *

続いて、「御嶽山」へ向かいました。

★ 御嶽神社 ★

久喜の御嶽神社（おんたけ山）は当時全国的に盛んになった御嶽神社の信仰を地元の先達が本町千勝神社のところへ、明治20年に祀られたのが初めです。御祭神は、大己貴命（おおなむじのみこと）＝大國主命（諸国を開拓した神）、国常立尊（くにとこたちのみこと）（天地創造の神）、少彦名命（すくなひこなのみこと）（医薬の神）の三神を総称して御嶽大神と呼ばれています。新二の御嶽山は明治二十七年、当地に祀られたものです。記 新二商店会

山上に祀ってあ

る石の文字は中島撫山記載のものということが最近「中島敦の会」で発見された。 <次号につづく>



〔山全体が御神体の御嶽山神社〕



〔中島撫山が揮毫した石碑〕